

せっかくなんで、モーツァルトのミサのこと(^^♪

モーツァルトは、生涯で 17 曲のミサと、死者のためのミサを 1 曲、作曲しています。 フロイデ演奏↓

k.49	ト長調『ミサ・プレヴィス』	1768	ザルツブルク	
k.65	二短調『ミサ・プレヴィス』	1769	司教は、	
k.66	ハ長調『ドミニクス・ミサ』	1769	シュラッテン	
k.139	ハ短調『孤児院ミサ』	1768	バッハ	
k.140	ト長調『パストラル・ミサ』	1773?		2025
k.167	ハ長調『三位一体の祝日のためのミサ』	1773	ザルツブルク	2020
k.192	ハ長調『ミサ・プレヴィス』	1774	司教は、	
k.194	二長調『ミサ・プレヴィス』	1774	コロレド。	
k.220	ハ長調『雀のミサ』	1775	窮屈のあまり	2022
k.257	ハ長調『クレド・ミサ』	1776	1777 年	
k.258	ハ長調『シュパウル・ミサ』	1775	(21 歳) で	2018
k.259	ハ長調『オルガン・ソロ・ミサ』	1775-76	辞職！ただ	
k.262	ハ長調『ミサ・ロンガ』	1775	諸般の事情	2022
k.275	変ロ長調	1777	でまた戻り、	
k.317	ハ長調『戴冠式ミサ』	1779	再度コロレド	2016
k.337	ミサ・ソレムニス 八長調	1780	に仕えたが	1988
k.427	ハ短調『大ミサ曲』	1782-83	1781 年	2006
k.626	レクイエム 二短調	1791	遂に脱出！	2015
				2026
				2018
			ウィーン拠点	
				※

※レクイエムは、1986、1990、1996、2004、2016、2023 に演奏し、次は 2027 年予定です。

私たち、ミサ曲をたくさん演奏してるので、余り意識していませんが、実はミサって教会の典礼文を使わないといけないうし、キリエ・グロリア・クレド・サンクトゥス・ベネディクトゥス・アニュスデイ、と、6 曲も作らないとアカンので、作曲はメツチャタイヘンなのであります。それを 35 年の生涯で 17 曲もつくったモーツァルトはすごい！ちなみにハイドンは 77 歳の生涯で 14 曲。モチロン、仕えているエライ人からの要請やその人の活躍の場面で作曲ジャンルが異なるので、一概には言えませんが、いずれにせよ、モーツァルトがすごいのは確か。

戴冠式ミサは、1779 年の作品ですが、この前年、1778 年は、パリへの就活旅行中に最愛の母を亡くしたのでした。就活も失敗し、憔悴きってザルツブルクに戻ってきた頃の作品。できればなあ、コロレドではない誰か音楽を大事にするエライ人に仕えたかったのですが、ダメだったんですね～。

で、戴冠式ミサですが、モーツァルトのミサ曲のなかでも一番人気！

コロレドの締め付けを逆手に取って、モーツァルトが自身のいろんな魅力をギリギリいっぱい全部詰め込んだ宝石箱♪明るく快活。すごいねえ。この翌々年、モーツァルトはザルツブルクを飛び出します。誰かに任えるのではなく、フリーランスとしてウィーン拠点の音楽づくりが始まります！